

部会開催

商店街に「こども110番の家」のステッカー貼付

第2回目の学校運営協議会（部会）を、8月26日（月）＜中学校部会＞、9月4日（水）＜小学校部会＞にそれぞれ開催しました。

中学校部会→1学期の学校評価結果を受けての学校の現状把握

小学校部会→落雷時の対応やスクールボランティアの現状、安心・安全の取組等の現状把握

中学校の1学期の学校評価は、「㊦㊧㊨㊩㊪」になぞらえた5項目を主に、保護者、生徒、教職員の三者で行いました。結果は、学校の取組の成果が反映されるものでしたが、㊩に関わり生徒の家庭学習の在り方が課題として提起されました。現在学校では、主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善を進め、生徒一人ひとりに学びに向かう力を身に付けようと努めています。しかし、保護者や子どもの評価が6割を超えないことから、その原因は、子どもたちの興味・関心を引く携帯、パソコンの使用時間に問題があるとして、今後この生活時間の使い方をどう変えるかが鍵ということになりました。そこで、学校では粘り強く学習の積み重ねの大切さを説き、目標を持って学習に向かう習慣の定着に取り組むこととしています。

小学校では、落雷時の「マチコミメール」を活用した保護者への緊急連絡が、予想以上の迅速な対応ができたことから、これから登録者100%を目指して、緊急連絡体制を整えていくこととしています。また、懸案であったスクールボランティア（図書）を4名募ることができ、図書整備にご苦勞いただいていることから、今後の図書蔵書のバーコード化に期待を寄せていました。さらに、「安全・安心の取組」では、「こども110番の家」の各戸へのステッカー貼付が本格化し、町内の商店街を中心に貼られていることから、抑止効果が高まり不審者から子どもを守ることができるかと安堵の声が広がっていました。しかし、学校前の町道を走る車のマナーが悪くとても危険な状態が見られることから、「スクールゾーン」表示や「学校安全マップ」の町民配付を通して危険箇所の認識を高める必要があるとしました。話し合いはフリートークで、子どもたちの安全を考えての前向きな発言に、しばし時間が経つのを忘れて対応策について意見を交わしていました。

両部会ともわずか1時間程度でしたが、それぞれの出席者の思いが反映された部会となり学校運営について理解を深めることができました。部会の様子は次回の学校運営協議会で報告され、その内容如何によっては学校運営協議会の取組として前進した取組となっていくものと考えられます。

近年、学校は複雑化・困難化した課題を抱え、その解決を図り、子どもたちに生きる力を育むためには、地域住民や保護者等の参画を得た学校運営協議会の役割はとても大きなものがあります。コミュニティ・スクールの導入は、開かれた学校から一歩踏み出し、地域の人々と目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校」への転換に他なりません。今後、地域との連携や協働体制が組織的・継続的に確立されることが、コミュニティスールの成否を握っています。しかし、一朝一夕に成し得るものではなく、地域と学校が連携・協働して、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えていく活動を「地域学校協働活動」として積極的に推進していくことがとても大切なことです。活動のキーワードは、「支援」から「連携・協働」、個別の活動から「総合化・ネットワーク化」です。学校運営協議会の活動にご支援をよろしくお願いいたします。

